

産都市建設の根幹事業として、次のとおりその複線化電化を促進し、輸送力の飛躍的な増強をはかる。

・複線化工事荒尾一熊本間(四五〇〇) 三十九年三月
月(四十三)三月(大野下)玉名間四・五(五〇〇)は
四十年八月完成
・電化工事荒尾一熊本間(四五〇〇) 三十九年三月
一十四年十月開通(現在複線化部分の電化工事申
施行)

有明臨海工業地帯整備

新産業都市北部の工業開発拠点として、荒尾、長洲臨海部を中心に、産炭地域振興計画の推進とあいまって、石炭を活用する石炭関連工業の拡大をはかるほか、機械金属工業、窯業、二次化学製品工業などの開発を推進する。このため、荒尾港および長洲港を工業開発の進度に応じて、港湾施設の整備をはかる。

道路については、有明臨海道路、国道二〇八号線、城北開発横断道路の一環である玉名山鹿線、臨海部と九州縦貫高速自動車道とを連結する荒尾南関線などを基幹道路として整備をはかるほか、所要の道路、街路の整備をはかる。

また、工場用地、工業用水については将来の工業開発の規模に適合するよう企業進出のテンポに応じて整備することとするが、用地については、主として三井が造成している荒尾臨海一号地への南下促進、長洲港中地区への新たな企業の誘導をはかる。用水については、関係の河川水、地下水などの有効利用をはかると

ともに、菊池川および関係河川の水源開発調査を進める。

その他、住宅、住宅用地、上水道、下水道、教育、厚生、公園緑地など生活環境施設の整備をはかるほか、公害防止について、土地利用、企業誘導に当り特に留意する。

玉名平野土地改良事業

阿蘇外輪山の西麓

から流れ出る菊池川は、中流の菊鹿盆地をうろおし、下流域にデルタをつくらせて有明海に注いでいる。このデルタを中心に玉名平野がひろびろとあり、菊池川中流域の菊鹿盆地ともに城北における二大米作中心地である。

玉名平野のかなめにあたる白石堰およびその左右の用水路の改修により、玉名平野の耕地四、四〇〇畝を菊池川の自然の流水で合理的にかつ安価にかんがいし、農業生産の基盤を確立するため、玉名平野土地改良事業(災害関連を含む)が昭和三十六年度着工、四十五年度に完成の予定、総事業費十五億六千万円、事業主体は県である。

(注一五頁を参照)

菊池台地農業開発

菊池台地は、二万畝に及ぶ

畑地帯で、本県畑作面積の三分の一を占めているが、土地生産性が極めて低い。県においては昭和三十五年から菊池川を調査してきたが、ダム地点および流況に恵まれないため、深層地下水による小規

模開発を進めているが、抜本的な水利開発を必要とするものであり、筑後川が開発水系に指定され、菊池台地については、基本計画において「すみやかな調査と相まって必要な措置をとる。」ことになつており今後調査を進め、早期実現を図るものである。現計画では、杖立ダムより一九七の導水隧道で追間川につなぎ、追間川調整池より取水して一万四千畝の開田、畑かん等の農業水利開発である。

(注三〇頁を参照)

菊池川改修

菊池川は、阿蘇外輪から発して西流し、本地区の中央部を貫流する。すなわち、菊池市、鹿本町、山鹿市、菊水町、玉名市な



大津街道の杉並木

どを経て有明海に流入している。洪水、災害より防除するための本川の改修は極めて重要である。計画概要は、下流部については、旧堤の拡築、掘削、浚渫等により適当な河積を与え、上流部は特に幹支川とも堤防が不備で洪水被害が甚大であるので、旧堤拡築、新堤築造、掘削等を行なう。また支川合流部の附替、流路の改良を行ない、災害防除につとめることにしている。

大規模空港建設

航空輸送の果し

ますます大きくなっているが、現在の熊本空港は、滑走路一、二〇〇〇で、今日における航空機の大型化、スピード化の要請にこたえることが困難となった。このため、従来滑走路を二、〇〇〇に拡張する計画を進めてきたが、九州の中心部に位置する本県の地理的優位、九州横断道路、九州縦貫高速自動車道の建設等に伴う陸上交通の要衝としての役割増大、九州における中核都市としての熊本地域の開発構想等と関連して、九州および北海道に各一カ所所定されている大規模空港の建設をめざして運動を展開することになった。この場合、現熊本空港を大規模空港として整備することは甚だ困難であるので、調査の結果、現熊本空港

の東方約七・五にひろがる高遊原台地が大規模空港として最適な立地条件を有している

ので、建設候補地として、今後地元の協力を得てその実現につとめることにしている。空港の建設については、当面新空港の設置を「熊本空港」の移転ということにスタートは大規模空港ではなく、現熊本空港を拡張した程度の滑走路二、〇〇〇に、着陸帯の幅三〇〇に規模である。しかし、これが実現すれば、滑走路を三、〇〇〇に延長して、名実ともに大規模空港として整備を図るものである。この大規模空港の建設は、本地区、本県のみならず、全九州的な画期的事業であり、国内先進地域ならびに中国、東南アジアとの物・人・情報等のスピーディな交流は、経済的にも意識的にも、戦後地

鋼管パイプで漁場造成

大浜漁協のり養殖

玉名市大浜町の大浜漁協(組合員五七六名)では、のり養殖場のために数多くの進んだ対策が講じられている。四十二年三月末に完成した、鋼管パイプによる沖合い養殖漁場の開発もその一つ。これは四十年に漁業構造改善事業として行なわれたもので、既存漁場より平均三〇〇に沖出しして、干潮時の水深三・六にラインに鋼管パイプ一万五〇〇本を建て、パイプ内部約三四平方センチ、パイプ背部六八平方センチをあわせて二〇二平方センチにわたる漁場を造成したものである。

鋼管パイプの採用は県下でも初めてのもので、従来の竹や木の支柱にくらべて、波浪にも強く、半永久的に使える。ことに防波網の役目も果たして、既存漁場は勿論、パイプと既存漁場の海面が漁場として使えるなど、大きな効果をみせている。造成漁場の一部では、すでに生産も行なわれたが、その結果は、品質の最高、生産枚数も既存漁場にくらべ、大幅な増収を上げている。

このほか、漁協独自で三十五年に共同培養所を、また三十七年には、のり施肥防除船二隻の導入をはじめ、再乾燥施設や備蓄倉庫などをいち早く設置して、生産や所得の向上をはかるなど、その近代化への意欲は、県下ののり養殖業のパイロット的役割も果たしている。

羽ばたく協業養鶏

鹿本養鶏組合

鹿本郡鹿本町の農業構造改善事業の一環として、石洲地区に、四人の協業による、法人組織の鹿本養鶏組合が発足したのが三十八年。県下では初めてのテストケースとして三羽羽養鶏からスタートしたこの協業養鶏も、いまでは成鶏三万羽、育成鶏一万五、〇〇〇羽と規模も大きく着実に発展の道を歩いている。〇〇羽と規模も大きく着実に発展の道を歩いている。〇〇羽と規模も大きく着実に発展の道を歩いている。〇〇羽と規模も大きく着実に発展の道を歩いている。

衛生管理の面も、県畜産保健衛生所との密接な連携で万全、協業にとつて最も要求される人の和も、組合員の家庭の主婦で婦人部を結成し、家族ぐるみで意思の疎通をはかるなど、ガッチリとしたスクラムを組んでいる。当初の目標の「内容の充実」は一応完了。来年からは、一歩前進して更に一万羽増殖の計画も樹てられている。

よこがお

菊池郡泗水町が酪農にとりくむ意欲にはめざましいものがある。その一つの例を、泗水町農協乳用雌牛牛保育育成牧場にみる事ができる。この牧場は、町の酪農家の要望で、農協が事業主体となり、総事業費約二、三〇〇万円をかけて、三十八年度末に完成したもので、三〇〇の牧草地をもついわば一種のルーズバウン(開放牛舎)システムである。ここでは、その名の通り、年間五、四〇〇以上の搾乳量をもつ優秀なホルスタイン種の母牛から生まれた、生後一週間から一カ月の雌牛を、農家から手託または購入し、二〇カ月の間育成、妊娠を確認して農家へ還元する。育成だけを

行ない、しかも二〇カ月という長期間の飼育施設は全国でも珍らしいもの。牧場では現在八二頭を飼育中。これまで、三七頭が農家へ還元されているが、その農家では「従来の畜舎内飼育では、運動不足から搾乳効率が低いこと、また搾乳頭数が多くなると育成までは手がまわらないという悩みがあった。牧場ができ、その悩みも解消というわけ。その上、放牧で風や雨にもまれて育つため、健康で食い込みがよ、搾乳量も多い。これで多頭飼育への自信もついた」と喜ばれている。泗水町の酪農は、毎年着実な伸びを示し、四十年の町の統計では、乳牛飼育戸数三八六戸、頭数は一、三一九頭を数えている。

酪農の新方式

菊池郡泗水町